

TOMIYA H.S. UNESCO

# NEWS LETTER



令和8年度 第1号 宮城県富谷高等学校 ユネスコ企画部発行 2026年6月

## ～持続可能な地域とまちづくりを目指して～

### 31回生「収穫祭」～課題研究発表会 本選～

4月18日(土)、課題研究発表会「収穫祭」を開催しました。テーマは「持続可能な地域とまちづくり」です。生徒たちは富谷高校を“仮想市役所”に見立て、地域が抱える課題に対して約1年間にわたり探究を進め、その解決策を模索してきました。

本選には、3月に実施された予選を勝ち抜いた9チームが出場しました。今年度は「多様な他者の視点を取り入れ、課題研究を深化させること」を重点テーマとし、宮城大学との連携によるブラッシュアップセッションや、1・2年生合同での課題研究、フィールドワークの実施、外部コンテストへの参加などを通して、研究の質の向上に取り組んできました。

当日は、各チームがこれまでの調査・分析や検証結果をもとに、熱意あるプレゼンテーションを行いました。現場でのインタビューやアンケートなどを通して得た具体的なデータに基づいた提案が多く見られ、実践的で説得力のある内容となりました。

審査員には、富谷市長をはじめ、宮城大学・宮城教育大学の先生方、PTA会長をお迎えし、専門的な視点からの質疑応答が行われました。生徒たちは鋭い質問に対しても、これまでの研究を踏まえて堂々と、かつ誠実に応答しており、その姿が大変印象的な発表会となりました。



#### 入賞者の紹介

**第1位(持続可能な地域とまちづくり大賞)・特別賞: 企画部A3班「発酵パワーで三世代をひとつに！」**

**第2位: 教育部G6班「人生ゲーム大作戦～不登校生徒への支援に関する提案～」**

**第3位: 保健福祉部D1班「つなパ! with とみやっ子～人と人がつながるパークをとみやっ子と作る～」**

1・2年生の皆さんへ。これから探究を深めていく上では、ゼロから新たなテーマを考えることに加え、先輩たちが積み上げてきた研究を時代に合わせて発展させていく視点も大切です。これまでの研究の中から未開拓の部分を見出し、さらに深めていく「知の継承と発展」も重要な探究の形です。先輩たちを超える、新たな「実り」が来年の収穫祭で輝くことを期待しています。

## お知らせ



本校31回生の課題研究の取り組みが、JA新みやぎの広報誌「新みやぎのわ・わ・わ」7月号に掲載されます。収穫祭で入賞した3チームが取材を受け、研究内容や活動の様子が紹介される予定です。ぜひご覧ください。

企画部A3班が考案した赤酢ドリンク「とみやの赤しずく」は、PRキャラクター「あかっぴ」とともに7月下旬～8月末まで、ユートミヤのFLATWHITE COFFEE FACTORYにて販売されることが決まりました。ぜひ皆さん足を運んでください。

# 33回生 ユネスコ・オリエンテーション

4月13日(月)、1年生を対象としたユネスコ・オリエンテーションが行われました。ユネスコの理念のもとで学ぶ富谷高校生として大切にしたい「志」や、世界の課題に対して自分たちにできることについて学びました。

本校がユネスコスクールとして重視している考え方や、これからの社会を担う高校生に求められる姿勢への理解を深め、これからの探究活動の土台となる意識づけの時間となりました。一人ひとりが主体的に行動し、身近な課題から世界へと視野を広げていくことの重要性を確認しました。本校では、ユネスコスクールをESD(持続可能な開発のための教育)の推進拠点と位置づけ、地域と連携した活動を通して、持続可能な社会の創り手の育成を目指しています。今回の学びを出発点として、1年生の皆さんが学校生活や地域での活動に主体的に取り組んでいくことを期待しています。

## 32回生 課題研究スタート!

### 富谷市講演会

6月2日(火)、総合的な探究の時間(T-time)の一環として、2学年を対象に富谷市長・若生裕俊氏による特別講話を実施しました。講話では、富谷市の歴史や現状、まちづくりの方向性について説明があり、「住みたくなるまち日本一～100年間ひとが増え続けるまち～」の実現に向けた取組について学びました。さらに、今年度改定された『第2次富谷市総合計画』をもとに、7つの基本目標と施策について理解を深める機会となりました。特に、「市民力」の重要性や、産業振興、子育て支援、環境、交通など多様な分野での取組が紹介され、生徒たちは自分たちの住むまちの魅力と課題を改めて認識しました。講話の最後には、市長より「高校生の視点で自分たちにできることを考えてほしい」とのメッセージが送られました。生徒たちは地域の一員としての意識を高めるとともに、今後の課題研究に向けた視点を得ることができました。

生徒からは、「東北で一番、東北で初という取組が多く、富谷市のことを誇らしく感じた」「富谷市の一番の強みが“市民力”であるという話が印象に残った」「高校生ならではの視点を生かして、課題研究を通してまちづくりに関わりたい」との感想が寄せられました。



### 課題研究基本講演会

6月4日(木)、「総合的な探究の時間(T-time)」において、2学年を対象に、宮城大学事業構想学群事業プランニング学類准教授の高山純人先生をお招きし、課題研究基本講演会を実施しました。

この講演会は、2年生がこれから本格的に課題研究を進めていくにあたり、高校での普段の「学習」や「勉強」とは少し異なる、「研究」や「探究」とは何かについて理解を深めることを目的として行われました。また、地域についての課題研究に取り組むうえで必要となる、課題発見の視点や情報の扱い方、価値の見つけ方について学ぶ機会ともなりました。

今回の講演を通して、生徒たちは探究活動とは特別に難しいものではなく、日常の疑問をもとに問いを立て、調べ、考え、確かめていく過程であることを学びました。また、地域課題に取り組む際には、問題点だけでなく地域のよさや価値にも目を向けることの大切さを理解しました。

今後、2年生はそれぞれのテーマに基づいて課題研究を進めていきます。今回学んだ「問いの立て方」や「調べ方」、「仮説の立て方」、「地域を見る視点」を生かし、主体的に探究を深めていくことが期待されます。本講演は、生徒が身近な課題に向き合うきっかけとなる有意義な機会となりました。

